

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	かのう ひでとし 和 秀俊		
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	ひろせ つよし 廣瀬 毅士	立教大学コミュニティ福祉学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	RIK f-120702-0	22	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：学生たちが、地域社会における生活問題の解決に向けて、自分たちの関心があるテーマについて質的調査を行い、それぞれのテーマを深く探求し、それらの問題の新たな解決方法を発見した。また、これらの作業を通して、企画力や問題解決能力、コミュニケーション能力、主体性、協調性等も身に付けることができた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：地域社会における生活問題の解決に向けて新たな視座を得るために、それぞれの問題に取り組んでいる NPO 等の団体・組織で質的調査を行った。

2. 調査の内容/概要：子ども支援、スポーツを通じた地域活性化、障がい者支援、中山間地域活性化、避難者支援、ニュータウンのコミュニティ形成を行っている行政、企業、活動団体、地域住民等に参与観察とインタビューを行い、KJ 法等を用いて分析した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：ドキュメント分析とヒアリングの結果によって、子ども支援、スポーツを通じた地域活性化、障がい者支援、中山間地域活性化、避難者支援、コミュニティ形成に取り組んでいる代表的な行政、企業、活動団体を抽出し、調査対象に選定した。

4. 主な調査項目：ドキュメント分析によって、各テーマの現状と課題等を整理し、それに基づいて、各団体の現状と課題、具体的な取り組み、支援サービスの利用者の考えや意見、様子について参与観察とインタビュー調査を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：各団体に、学生がボランティアとして関わる中で参与観察を行い、フィールドノートを書き、さらには、サービス提供者 (団体責任者、スタッフ) や利用者等にインタビュー調査を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：5月から調査を始め、保育園、鉄道会社、社会福祉協議会、NPO、障害者施設、障がい者を雇用する会社、団地自治会、総合型地域スポーツクラブなどに2~6名の学生が参与観察とインタビュー調査を行った。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：それぞれの団体において参与観察とインタビュー調査で得られた質的データは、「分厚い記述」とまではいかないまでも、質の高いデータとなった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：参与観察とインタビュー調査で得られた質的データを各グループで KJ 法などで分析し、子ども支援、スポーツを通じた地域活性化、障がい者支援、中山間地域活性化、避難者支援、ニュータウンのコミュニティ形成の方法を抽出した。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：分析した結果、子ども支援ではワークライフバランスの必要性、スポーツを通じた地域活性化ではファンの意識をコミュニティ形成に向かわせる必要性、障がい者支援ではその人らしさを実現できる働き方の必要性、中山間地域活性化では地域住民の意識改革の必要性、避難者支援では地域住民と避難者が交流できるサロンの必要性、ニュータウンのコミュニティ形成では学生などの若者が関わる仕掛けの必要性などが新たな視点として導き出された。

10. 報告書刊行の予定と概要：第1章子ども支援、第2章スポーツを通じた地域活性化、第3章障がい者支援、第4章中山間地域活性化、第5章避難者支援、第6章コミュニティ形成について学生が分担執筆し報告書を作成した。報告書は印刷せず、CD化した。